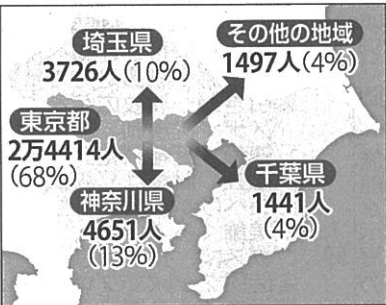


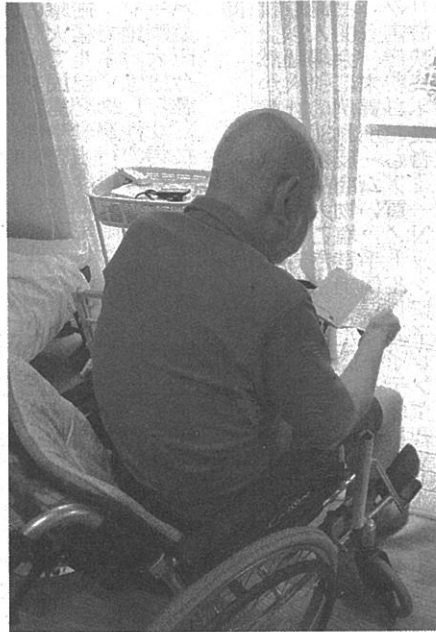
病院転々10年で70回

10年間にわたって転々とした病院の名前を書き留めたメモ帳を眺める男性。「今でも、病院をぐるぐる回っている知り合いがいる」と話す

◆有料老人ホームなどを利用する東京都民の要介護高齢者は3割が他県に移住している



2014年2月現在。日本創成会議の資料より(小数点以下四捨五入。数値は合計100%にならない)



「知人おらん」高齢者漂流

終のすみか

(1面の続き)

車いすに座った男性(73)が、使い込んだメモ帳を開くと、千葉、栃木、埼玉、東京、群馬の「病院名」と「日付」が、71行にわたって書きつづられていた。「何度も転院させられ、

次第に疑問に感じるようになった」。今は千葉県のアパートで介護サービスを使って暮らす男性は言う。書き込みは、昨年2月までの10年間、流浪の入院生活を続けていた男性の転院記録だ。日付は入院日で、転院回数は計70回に及ぶ。始まりは2004年。千葉県内の飲食店で働いていた男性は、股関節に激痛が出て救急搬送された。原因

が分からないまま入院が続くうち、仕事を失い、蓄えも底をつき、生活保護を申請。その後、病院に指示されるまま、ほぼ1〜3か月ごとに転院を繰り返した。年に何回も入院した病院もあり、転々とする中、同じ境遇の患者と何度も顔を合わせ、親しくなる人もいた。「ぐるぐる病院」――。

生活保護の人が頻繁に転院を重ねる例は、そう呼ばれず、珍しくない。独居や低年金

の高齢者が増える中、誰でもこうした漂流生活に陥る危険はある」と指摘する。◆ 不意な居所をあてがわれる高齢者は、何も首都圏の人ばかりではない。大阪市内から電車で約1時間半。琵琶湖の東に位置する滋賀県東近江市では、最近、低価格のサービス付き高齢者向け住宅が続々とオープン。昨年、生活状況を把握しようと市が6か所を調査すると、入居者から嘆きの声が聞かれた。「やっと退院して家に帰れると思ったら、次はこ

大阪府内で一人暮らししていた80歳代の男性は、寂しそうに語った。自宅で倒れて入院。退院の日を迎えに来た息子の車で、ここに連れてこられた。90歳代の女性は「家に帰りたい」と、市職員の腕を配する家族の勧めで入居。歩けるのに、転倒を恐れる管理者は外出を認めない。女性は「知ってる人もおらんし、こんなところ居たくない」と、誰かに聞かれないうつ小聲で訴えた。「安心できる」との声もあったが、「かこの鳥や」と漏らす声もあった。移住先で孤立する高齢者も少なくなかった。「住み慣れた地域での暮らしを目指す国の方針と逆行しているのでは」と、調査した市職員は首をかしげた。

有料ホーム月22万

老後を住み慣れた家で暮らすうと思っても、認知症や病気、一人暮らしなどで希望をかなえられない人は多い。だが、費用の安い特別養護老人ホームは人気が高く、入居は難しい。このため、高齢者住宅などに頼らざるを得ない現実がある。日本創成会議の資料による

と、東京都民で有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに暮らす人は約3万5700人。うち、3割が千葉、埼玉、神奈川県に移住している。さらに遠方に移った人も約1500人いる。これ以外に、把握できていない人も多い。「都民が他県に流れるのは、

「都心暮らし難しい」

費用の問題が大きい」。高齢者住宅のコンサルティング会社「タムラプランニング&オペレーティング」代表の田村明孝さんはこう指摘する。同社の調査では、介護付き有料老人ホームの1か月の平均費用は、最高が東京都の22万円。横浜市で21・3万円、神戸市で18・8万円と都市部で高い。それが千葉県なら16・3万円、群馬県は12・3万円と、周辺に行くほど安くなる。一方で、厚生年金をもらう人の平均受給額は、月14・8万円。国民年金の人なら、月5・5万円だ。田村さんは「かなりの蓄えか家族の支援がなければ、介護が必要になって都心で暮らし続けるのは難しい」と話す。

◆意見・感想を「社会面に情報」の連絡先にお寄せください。